

【基本方針】

住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する

【年間目標】

- ① 適切な言葉遣いの徹底
- ② 良質なサービスの提供
- ③ 家族との連携
- ④ 地域との連携
- ⑤ 目標稼働率 97%を目指す
- ⑥ 経費削減を図る

【実践報告】

① 適切な言葉遣いの徹底

・1年間、言葉遣い、相手に与える印象について、ミーティングや会議で話をすることで、職員一人一人の意識は向上したと思われる。しかし、まだ、言葉遣いが崩れてしまう場面も見られるため、継続した意識付けが必要

② 良質なサービスの提供

・食事に関しては、入居者様の状態に合わせた形態での提供をすることが出来た。水分摂取に関しては、嗜好に合わせたものの提供をすることで平均 1,554 cc 摂取することが出来た。歩行などの活動量に関しては、雨季や冬季など、季節によって差があったが、外出行事などを計画実行し、屋外での活動を支援した。

・認知症状態に応じた専門的ケアの実施に関して、介護計画書を 3 ヶ月毎に更新をし、状態に合わせた支援の提供を行うとともに、アセスメントシートを活用した評価を定期的実施した。

・安全管理の徹底に関して、事故の発生件数は 57 件であり、前年度に比べ減少。服薬関係の事故に関しても 13 件と、前年度に比べ大幅な減少となった。

・感染症に関しては、グループホーム入居者様の中には発生することはなかったが、職員が 1 名インフルエンザを発症することがあった。

・チームケアの実施に関しては、週に 1 回のユニットミーティングや月に 1 回の会議を開催し、支援内容を話し合う機会を持った。

・余暇活動の充実に関しては、外食レクや行事を開催することで、活動的な余暇を提供することは出来たが、気候により変動はあった。生活の中での役割提供は、入居者様の状況により、家事を手伝っていただいたが、出来ない入居者様もおられる状況であった。

・職員のスキルアップに関しては、認知症介護実践者研修に 2 名の職員を参加。

